

広報

天使ひょういん

冬号
2026 JAN
vol.79

T E N S H I - H O S P I T A L

撮影：織田 小百合



INDEX

- p2-3 移行期医療チーム
- p4 Inside hospital「産婦人科」
- p5 エッセイ「わたしの〇〇」(第24回)
- p6 臨床研修プログラム
- p7 レシピ
- p8 お知らせ

謹賀新年

移行期医療チーム 立ち上げました!

～小児から成人の“つなぐ医療”を目指して～

はじめに

近年、医療の進歩により、小児慢性疾患をもつ方々が成人期を迎えるケースが増えています。かつては小児科での治療が中心であった疾患も、今や成人期以降も継続的な医療や生活支援が必要となっています。その一方で、小児科から成人診療科への「移行期」に支援が十分でない場合、医療の中止や不安の増大など、さまざまな課題が生じています。こうした現状を踏まえ、当院では2025年1月に「移行期医療チーム」を立ち上げました。

移行期医療チーム立ち上げの経緯

当院では以前から、小児慢性特定疾病や医療的ケア児への診療を行ってきました。しかし、成人期への移行の際に、患者・家族から「どの科に通えばよいのかわからない」「医療・福祉制度の違いに戸惑う」といった声が多く寄せられていました。そこで小児科、内科、看護部、医療ソーシャルワーカーなどが連携し、院内横断的なチームを設立しました。地域の医療機関や行政、在宅支援機関とも協力し、切れ目のない支援体制を築くことを目的としています。

現在のチーム活動

チームの構成

- チームリーダー:西村医師
- チームメンバー:小児科医、内科医、小児病棟看護課長・主任、NICU看護主任、成人病棟看護課長、一般外来看護課長、小児科外来看護主任、MSW、事務
- チーム会議:2ヶ月に1回開催しています

現在、当チームでは小児科外来・入院中の患者さんを中心に、成人期への移行を見据えた支援を行う準備をすすめています。医師・看護師・ソーシャルワーカーが中心となり、患者さんの疾患理解や自己管理能力の向上を支援するほか、成人診療科への紹介や情報共有を行います。また、在宅医療機関や訪問看護ステーションとも連携し、地域での生活を見据えた支援を進めています。必要に応じて、家族面談や多職種カンファレンスを開催し、安心して次のステップに進めるよう取り組んでいます。



課題

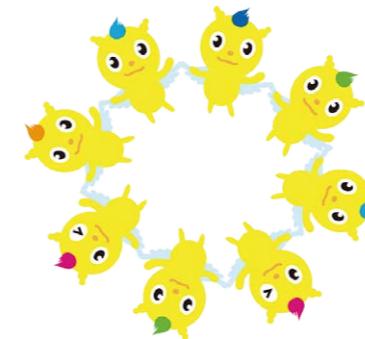
一方で、移行期医療の体制整備はまだ道半ばです。成人診療科側での受け入れ体制や、患者・家族への支援体制の周知など、多くの課題が残っています。また、診療報酬上の仕組みや人員確保の面でも十分とはいえません。

さらに、患者さんの疾患の種類や重症度により対応が異なるため、個別性に応じた柔軟な支援体制が求められています。

～東区での取り組みを始めています～

Child to Adult Transition Supporting team(CATS)

札幌市医師会東区支部と連携して移行期医療のチームを立ち上げ、当院のみならず地域全体で医療的ケア児(者)を切れ目なく支援する体制づくりを進めています。日常の風邪などの軽症診療は家庭医や近隣クリニックが担い、入院や専門診療が必要な際には総合病院が対応する分担型の医療システム構築を目指しています。



SMA-EAST Child to Adult Transition Supporting team



今後の展望

今後は、院内連携をさらに強化するとともに、市の医療機関、在宅医療機関、訪問看護、行政機関との連携を一層深めていく予定です。地域全体で支える移行期医療のネットワークを構築し、患者さんとご家族が安心して成人期の医療・生活へ移行できるよう取り組んでまいります。また、患者教育や地域研修会などを通じて、移行期医療の重要性を広く発信していくことも目指しています。



移行期医療チームは、患者さん一人ひとりの「これからの人生」を支えるために、これからも地域とともに歩んでいきます。



No.40

産婦人科 科長

後藤 公美子先生 (Kumiko Goto)

Inside hospital



産婦人科について

産婦人科は外科であり、内科であり、患者さんの年齢層も幅広く、とても面白い分野です。

その中で天使病院の産婦人科は、NICUと、小児外科のバックアップが充実していることから、胎児の先天異常の診断、管理を多く行なっていることが最大の特徴です。

出生数が年々低下している中、妊娠年齢が高齢化してハイリスク妊娠、分娩の割合は増えています。また、分娩を取り扱う医療機関も減少し、周産期に携わるものにとってはどんどん厳しい状況が進んでいる現状があります。札幌市内の高次医療機関も例外ではなく、それぞれの特色を持ちながらも、産婦人科の生き残りをかけて、どの施設でも分娩数の確保が大きな課題となっています。当院では無痛分娩の再開、セミオープンシステムの導入、条件下での分娩費用の割引キャンペーンなどを始めました。周産期センターとして妊娠、分娩の安全性を担保しつつ、患者さんに選んでいただけるような満足度の高い周産期医療を目指してまだまだ工夫、対策が必要です。スタッフ一同、知恵を絞って分娩施設としての魅力に磨きをかけ、さらに質の高い産婦人科医療を提供できるようにしていきたいです。そしてもう一つ、新しい産婦人科医のつぶみが数多く天使病院でも膨らんで、彼らの目にも魅力的な施設であるよう邁進したいと思います。

プロフィール

■経歴:2005年3月 秋田大学医学部卒業
2005年4月 市立札幌病院

2006年4月 北海道大学病院
2007年4月 市立札幌病院

2018年4月 羽田産婦人科
2021年6月 天使病院

■資格:産婦人科学会専門医、母体保護法指定医

■ごあいさつ

2021年6月に天使病院産婦人科に着任してから3年半が経ちました。環境にも慣れ、看護・医療スタッフや、院内他科の先生とも面識ができ、コンサルテーションもスムーズになったと感じています。天使病院は早産児、先天性疾患を持った児の周産期管理、出生後の医療体制が整っており、日々勉強させていただいております。自身のキャリアアップと共に、産婦人科をローテートしている若い先生方にも診療能力、医師としての心構えを身につけてもらえるよう、努力してまいります。

■専門分野について

研修医の頃から10年以上勤務していた病院は超未熟児からの管理ができるNICUを持つ周産期センターを持ち、また婦人科領域も悪性腫瘍も良性疾患も手術を行う様々な分野で拠点となる病院でした。300g台の赤ちゃんを娩出する日もあれば、婦人科癌の根治手術に1日没頭する日もあり、幅広い分野に携わっていました。当院では周産期医療はもちろんですが、外来には多岐にわたる患者さんがいらっしゃいますのでこれまでの経験が現在の天使病院での診療に生きていると感じています。また、前職では無痛分娩を多く経験し、天使病院で再開された無痛分娩にもスムーズに対応できました。

天使病院へは、周産期分野での専門性をより高めたいという思いで赴任させていただきました。さらに知識や技術を深めていきたいと考えています。

■趣味・特技

小学生の頃から大学時代までバスケットボールをしていました。現在は自分の趣味のために使える時間はほとんどありませんが、我が家の3人の子供達のうち、少年野球っ子の男子二人とはキャッチボールやストレッチ、ピアノを習い始めた娘と一緒にピアノを弾いたりと、子供達との時間が趣味化しております。そのほか、学生の頃から勉強したいと思いつつ、本格的にはしてこなかった英会話。日々の診療において、海外からの患者さんが増えており、英語力の重要さを感じるようになり、少しでも自分の言葉でコミュニケーションが取れるように、コツコツと頑張っております！

■後藤先生ってこんな人♪

後藤先生は当院へ赴任され5年目になり、産婦人科にとって欠かせない存在です。総合周産期センターでの経験もあり、安心感のある診察や確かな技術、親身になって寄り添う姿はまさに「天使」です。患者さんからはもちろん産科スタッフからの信頼が厚いのも頷けます。

優しく柔らかい印象のある素敵なお母さんですが、3人のお子さんを育てるカッコイイお母さんもあるというのだから驚きです。スタッフのみならず、札幌市民の憧れの的と言っても過言ではありません。



てんしごういん エッセイリレー「わたしの〇〇」

第24回 「わたしのおなかのおにく」

初期臨床研修医
大野 混介

やばいです。研修医2年目の大野です。

原因が食べて飲んでひっくり返っているせいなのはわかっているのですが。。。ここで一旦、アクティブだった昔を思い出してみることから始めさせていただきます。よろしくおねがいします。

父の影響で私は小学生の時に空手を習い始めましたが、パンチやキックが怖くて道場に行く時間になればお腹が痛くなり、当時テレビ放送されていた格闘技の試合は攻められている側が可哀想で観れませんでした。しかし思春期を迎えて喧嘩強くなりてえぜ！マインドとなった私はさらにムエタイも始め、元気に道場に通っていました。そして調子に乗ってい

た20歳の頃に総合格闘技の試合オファーがありました。総合格闘技？やったことないけど、喧嘩上等だぜ！と臨みましたが、何もできず馬乗りでボコボコにされました。まあ負ける事もあるだろうと消化しようとしたのですが、だんだん何もできなかつ自分に腹が立ってきて、勢いで総合格闘技の道場に入門、この頃から格闘技にのめり込むようになりました。総合格闘技はパンチもキックも投げも関節技もなんでもOKな競技です。今流行りのRIZINがまさにそれです。なんでもアリが故にどのようにして自分の得意な形を持っていくかが重要です。とにかく色々なテクニックや考え方があつて夢中になりました。そして運良くリベンジマッチの機会がありましたが、あっさり勝つてしまい拍子抜けしました。やればできる！歳の近い道場生も多く、みんなで頑張っていこうぜ！と盛り上がりでしたが、なんやかんやありまして私は23歳頃に格闘技を辞めて、勉強して受験して、現在に至ります。あの頃が懐かしいなあ。

さて、回想シーンを終えて改めて体重計に乗ってみましたがこれはひどい…。ということで友人のジムに遊びに行ってきました！まずはミット打ちからでしたが、3分どころか30秒が限界でした。なんかもう絶望しました、自分の身体に。でも身体を動かすと気持ちがいいですね。実は総合格闘技の道場には今でも会員登録はしているんです、最後に行ったのはいつだったかわかりませんが。もちろん喧嘩に強くなりたいわけでもプロとして生きていきたいわけでもありません。それでもグローブをつければスイッチが入ります。殴って殴られて。蹴って蹴られて。ああ生きてるなって感じがします。とてつもなく億劫ですが重い腰を上げて道場に行かなければ。何事も『迷わず行けよ、行けばわかるさ』ということです。以上です、押忍。





天使病院臨床研修プログラムについて ～これまでの研修を振り返って～

今回は2024年度に入職した5名の2年次研修医に、3月の卒業を間近にしてこれまでの研修を振り返って今思う事、次世代の学生・研修医に伝えたいことなど、お話ををしていただきました。

自己紹介



今井 公俊 (いまいたかとし)

各診療科において、様々な分野の魅力ややりがいに触れ合いながら、着実に知識や技術を身につけることができたと実感しております。これは、指導医の先生方をはじめ、あたたかく接してくださった多職種の皆様や患者様のご協力のおかげに他なりません。自身の成長を通じて、当院の研修がいかに実り多く充実したものであったかを皆様にお伝えできるよう、より一層精進してまいります。



大野 混介 (おおのこうすけ)

天使病院での2年間の研修生活はとても楽しいものでした。診療科の垣根を超えた指導を受けることができ、治療経過をカルテ上で追うだけでなく、リアルタイムで治療方針の決定に関わることができました。また、緩和ケアについて学ぶ機会もあり、包括的なケアにも参加させていただきました。天使病院最高！



小野 愛莉 (おのあいり)

2年間の研修が終わりに近づき、この病院で研修できて本当に良かったなという気持ちでいっぱいです。当院にある科のほとんどで研修をさせていただきました。学ぶことが多すぎて全てを吸収していくのは大変でしたが、先生方やコメディカル・事務の方々、そして患者さんも含め暖かく接してくださいりのびのびと研修することができました。本当にありがとうございました。



九富 健一郎 (くとみけんいちろう)

天使病院での初期研修2年間は、日々の診療を通して医師としての基礎を実践的に学ぶ非常に充実した時間でした。指導医の先生方や多職種の皆さんに温かく支えていただき、安心して挑戦できる環境が整っていたことに心より感謝しています。また、これまでお世話になった地域の皆さんにも、改めて心より感謝申し上げます。



藤田 理 (ふじたさとし)

当院の研修では臨床的な知識のみならず、日常的に学ぶ姿勢や社会人としてるべき姿勢も含めて様々なことを教わりました。天使病院で学んだということは自分の人生にとってとても貴重な経験だったと感じております。天使病院で研修できるのも残り少しですが、最大限に学んでいきたいです。また、天使病院で学んだことを生かして3年目以降も精進してまいります。

現在は彼らの他に、後輩の1年次研修医として7名、併せて12名の研修医がおります。後輩たちは先輩たちの背中を追って、切磋琢磨して成長していきます。

来年度は7名の新しい研修医が入職予定となっております。地域の皆様は研修医をぜひ温かく見守っていただければと思います。

おもち

巻いてみませんか

アレンジ

無限大

2026

スイーツ系

おつまみにぴったり♪
夕飯のおかずにもいかがですか

生ハムもっち~ず春巻き

◇材料

- ・春巻きの皮
- ・お餅（薄めのもの）
- ・さつまいも1/3本
- ・バター5g
- ・砂糖5g
- ・牛乳少量
- ・とろけるチーズ
- ・黒胡麻少量

◇作り方

- 1.お餅は食べやすい大きさに切る。
- 2.春巻きの皮を広げ、中央に青じそ→生ハム→お餅→カマンベールチーズの順に重ねる。
- 3.皮の端に水をつけ、手前から巻いて包む。
- 4.フライパンに少なめの油を熱し、両面がこんがりするまで中火で焼く（または揚げる）。
- 5.熱いうちにお好みで黒こしょうやはちみつを添えて完成。

親子で楽しみながら包むのも良いですね！

お子さんのおやつにもぴったり♪

第2回看護相談会を開催しました！

10月15日(水)専門・認定看護師による看護健康相談会を開催しました。

今年は、相談ブースの他に、乳がんセルフケアチェックや正しい手洗いの方法、赤ちゃん人形を実際に抱っこしてもらう体験コーナーを設け、会場にお越しのみなさんに体験してもらうことができました。今もかんごちゃんとの写真撮影は好評でした。



天使こども絵画コンクール開催しました！

12月1日(月)～12月26日(金)まで、職員のご家族の絵画コンクールを開催しました。

幼児部門、低学年部門、高学年部門の3部門に分け、職員のみならず、ご来院のみなさまにもたくさん投票していただきました！

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。



糖尿病予防教室について

オンライン(オンデマンド)方式の糖尿病予防教室を開催しています。
視聴期間は掲載から3ヶ月間です。詳しくは天使病院のホームページをご覧ください。



▲ホームページ

スケジュール(2026年1月～3月)

月	タイトル	担当者
1月	糖尿病と認知症	医 師 林下
	低血糖について	薬 剤 師 小澤
2月	体調が悪い時はどうすればいいの？	医 師 崎山
	糖尿病と足病変について	看 護 師 渡辺
3月	コレステロールと中性脂肪の話	医 師 辻
	ストレッチのすすめ	理学療法士 沢田

※4月以降の予定については、改めてご案内させていただきます。



表紙の写真紹介

今季の表紙写真～織田 小百合さん～

明けましておめでとうございます。

昨年の私は、環境の変化に戸惑いながら慌ただしく日々が過ぎてしまいましたが、広報の写真担当も含めて色々なことを挑戦させていただきました。そして、周りの人の温かさや優しさをたくさん感じることができました。今年も挑戦を続けながら、少しずつ恩返しができるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、写真見たよと声をかけてくださったスタッフの皆様、とても嬉しかったです。ありがとうございました。また、このような機会をくださった関係者の皆様に感謝いたします。

2026年の皆様の挑戦がウマくいきますように(ウマ年だけに)!!!!!!



編集後記

広報誌 「天使びょういん」第79号
発行日 令和8年1月15日
発行人 院長 山本浩史
編集 「天使びょういん」編集委員会

新年あけましておめでとうございます。今年度の表紙は、看護師の織田さんに1年間担当していただきました。優しく、ほっとする写真をお届けできたと思っていますが、楽しんでいただけましたでしょうか。春号からは、また新たな企画でお届けできればと思っています。

